



# ないしょないしょの しっぽがほん



ほく、ゆうのすけ、4さい。  
今夜はなんだかねむれない。  
なんでねなくちゃいけないの？  
けんたくんとけんかしたから  
保育園も行きたくない。  
あっ、お母さんが来た！  
タヌキ寝入りしておこっと。  
あれっ、だ、だ、だれ？

タヌキのおぼあちゃんがほくのおふとんの横に。  
びっくりしたー！

でももっとおどろいたのは、  
ほくのおしりに  
タヌキぼあちゃんの  
しっぽがくっついちゃったんだ！  
わー、とれない、大変だ！

そこでほくは、しっぽがもとに戻る  
おまじないを探しに  
キラキラ岩に向かって出発した。すると…



## 「タヌキがこないとねむれない！」

幼稚園で子どもたちに参加型のお話をしていた時のこと、お母さんカラスがおやすみと言っても子ガラスたちが「お話ししてくれないと…」「お歌うたってくれないと…」「とんとんしてくれないとねむれない」と言いますが、4歳の男の子が大きな声で言いました。

「タヌキがこないとねむれない！」

突拍子もないこの言葉に、子どもたちも、先生や私も大笑いをしてしまいました。それからは他の子どもたちも愉快な言葉をどんどん出して、会場は想像力いっぱいのもっとも楽しい空間になりました。

その言葉がきっかけとなり、この物語はうまれました。

子どもたちが安心して、自由に言葉を発して遊ぶことができ、特別なことなく明日を楽しみにしてぐっすり眠りにつき、友だちとけんかしても遊び心で壁を乗り越えられる、そんな世の中を願ってこのお芝居をお届けします。

演出 大森靖枝

〈大森靖枝プロフィール〉

幼児対象作品の演出、劇ごっこ「もりのためきさん」等の親子で楽しむワークショップ、保育士・幼稚園教諭のための研修会、子育て表現遊びの講座を多数行っている。芸術教育研究所研究員。

〈著書〉『先生も子どももできる 楽しいなりきりあそび』『0～3歳児のからだでワクワク表現あそび』(共著) 他 (芸術教育研究所監修●黎明書房刊)



〈見て下さった先生方、保護者のみなさんのアンケートより〉

- ★子どもたちが一緒に冒険しているようなお話でした。
- ★内容が子どもにとっても身近で、どの年齢も楽しめ、笑いが絶えない劇だった。
- ★昔遊びが劇のなかに入っていて良かった。
- ★演じている方の表情や、動き、そして手作りの大道具、小道具が子どもの興味をひき付けていた。
- ★先生が劇に登場したことで、子どもの親近感がわいた。

(中野区 宝仙学園幼稚園)